

ハヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様に出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様へ配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大地震が推定される前兆変動は観測されておりませんでしたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日、高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

No1778 長期継続変動 続報 12/4±3 に静穏化せず 初現が不明 現時点では 12/21 以降の可能性 静穏化待ち

Stage-28 他が11/1±2を示す

No1778 Stage-29

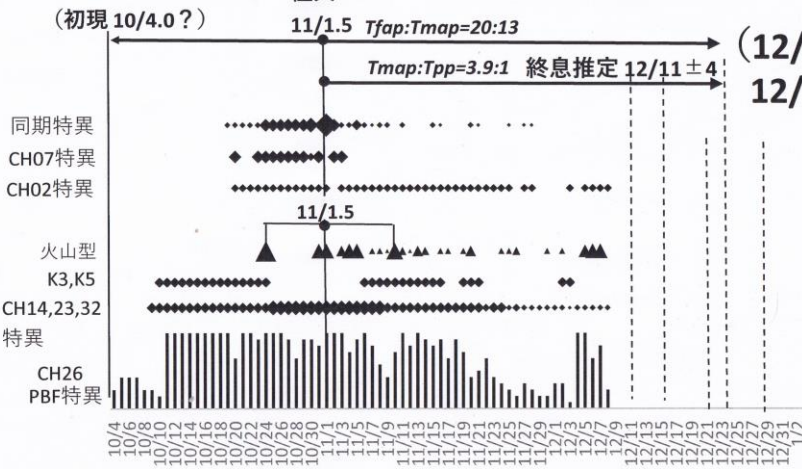
図1

図1のとおり、12/4±3には変動が静穏化しませんでした。

このことから、現時点では、12/21 以前に対応地震発生は可能性は否定されます。またステージ29の

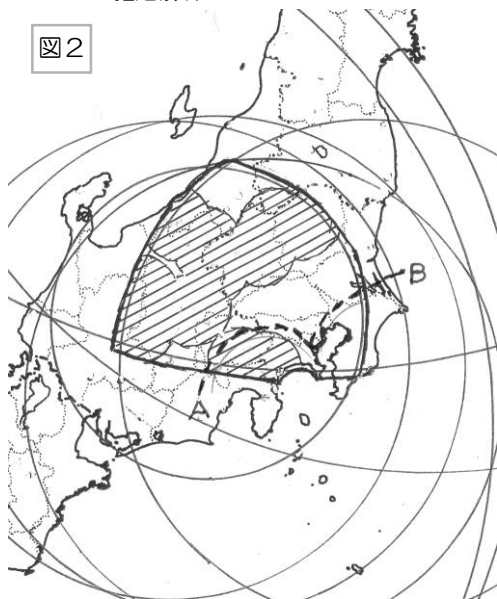
初現が10/9ではなかったこととなります。ステージ29はステージ28の変動と重複しており、明確な初現が認識できません。一応図1ではCH26のPBF特異の変動が小さく現れた、10/4を初現の可能性として記してありますが、確かではありません。現在の変動が完全終息するまで、発生時期推定は困難です。

12/11前後に静穏化した場合は12/24±3の可能性ががあります。図1では初現が不確定なため、12/24±5としてあります。12/16頃まで変動が継続した場合は、対応地震発生は年末頃となる可能性もあります。変動変化に注視して、続報で報告させていただきます。



No1778 推定領域

図2



A~B弧線以南の可能性は低い

●推定領域：図2の太線領域内＝大枠推定領域
図2斜線域＝可能性が考えやすい推定領域
震央が火山近傍領域を含む可能性高い

●推定規模：主震 M8.0±0.3 または
複合の場合＝M7.4±0.3 + M7.3±0.3 他等
Log L=0.5M-1.8 (Utsu.) 式で余震を含まない大型地震の断層長Lkmが合計で約150km程度となる様な複合地震活動の可能性

※直近で噴火の可能性が考えられる変動はないため、現状では震央近傍火山の噴火の可能性は考えにくい
今後噴火変動が観測された場合は続報予定

●推定時期：12/24±5（静穏化確認後修正予定）

○推定地震：震源浅い陸地地殻地震

○推定発生時刻：午前09時±2 or 午後06時±3

(午前09時前後～11時の可能性若干高い)